

ツイッターに用いられる「ーみ」の用法

依田 綾乃

1. 研究の目的、対象

ツイッターとは、自分の現状や感じたことなどを140字以内のつぶやき（以下ツイートという）として発信することができるネットワークサービスである。

ツイッターでは人々は自分の感じたことを発信するため、感情を表す語が多くみられる。その中で着目したのが「ーみ」という語である。「悲しみ」「楽しみ」などといった従来からある語が使用されているのはもちろん、「さむみ」「つらみ」などといった従来にはない語も使用されている。これらはツイッターの普及とともに現れた新語ではないかと考えられる。

米川(1989)によると、新語とは、新しくその言語社会に現れた語全般のことであり、大きく分けて、既存語に頼らずに新たに創造された語である「新造語」、既存語を利用した語である「新用語」、限定的社会の語が一般化した語である「新出語」の3つがある。新用語はさらに、既存語をもとにして語形に変化を加えた語と、既存語に別の意味を付加した語がある。

不特定多数の人物にツイートを見られる可能性があり、また140字という少ない文字数制限があるツイッターは、人々は他人に見られることを考慮したより短い言葉で情報を伝えようとするため、新語が発生しやすく、意味や用法が変化しやすい。また発生、変化した言葉はタイムラインに表示されるため普及しやすいという特徴もある。つまりツイッターには新造語、新用語、新出語すべての性格が現れるのではないかと、また、一つの語の年代の変化をみていくことで新用語としての面を詳しく知ることができるのではないかと考えた。ツイッターの言葉を調査、分類することで、新しい言葉の発生と普及の様子を探ることが本研究の目的である。

多くの「ーみ」という語がツイートされている中で、本研究では形容詞「ねむい」を名詞化した「ねむみ」⁽¹⁾を扱うこととする。「ねむさ」「ねむけ」という名詞が既に存在することから新たに発生した新造語であると考え、また年ごとに一定数見られることから、新しい用いられ方が発見しやすいのではないかと考えたためである。

2. ツイートの分類

ツイッターのタイムラインには他人がつぶやいたツイートも表示されるため、ツイートの発信者と受信者としてツイートの意図や単語の意味用法が異なることがある。新語は意味用法が定着していないものであるため、新

語を発信した発信者の感じる意味用法と、受信者の感じる意味用法が異なることは多いと考えられる。そこでどのような意味用法が広まっているかを探るべく、本章では、調査したツイート内の「ねむみ」の用法に関して、ツイート内の品詞による分類、接尾辞の意味による分類、造語法による分類をそれぞれ行い、考察する。

2. 1 ツイート内の品詞による分類

ツイートの「ねむみ」に該当する部分を「眠い」と置き換えたときに意味が通じるものを形容詞的用法、「ねむみ」に該当する部分を「眠気」「眠さ」に置き換えたときに意味が通じるもの、「ねむみ」に呼称がついているもの、「ねむみ」を連体修飾しているものは名詞的用法とした。それ以外のものや分類できないものはその他とした。(【表 1】)

【表 1 品詞による分類基準】

形容詞的 用法	連用形との接続 例：「ものすごくねむみ」「すごくねむみ」
	副詞との接続 例：「めっちゃねむみ」「非常にねむみ」「少しねむみ」 「かなりねむみ」「とてもねむみ」「まじねむみ」 「いい加減ねむみ」「げきねむみ」(「激しくねむみ」扱い)
	接続助詞による接続 例：「～してねむみ」「～したしねむみ」「～してもねむみ」 「～だけねむみ」「～なのにねむみ」「すでにねむみ」
名詞的 用法	連体形による接続 例：「ものすごいねむみ」「すごいねむみ」「激しいねむみ」 「～するねむみ」「～的ねむみ」
	接続助詞以外の助詞による接続 例：「～のねむみ」「ねむみを～」「ねむみが～」「ねむみに～」 「ねむみと～」「ねむみばかり～」「～とねむみ」
	呼称が付いているもの 例：「ねむみさん」「ねむみちゃん」「ねむみ先生」
その他	形容詞用法でも名詞的用法でもないもの 例：「ねむみました」「ねむみしながら」

「ねむみ」のツイート数及び品詞による分類の結果は以下の【表 2】の通りである。()内の数字はその年の全体数を 100 としたときの割合である。(以後、分類結果表は同様に割合を示す。)

【表 2 品詞による分類結果】

年	ツイート 全体数	形容詞的 用法	名詞的 用法	その他
2008	0	0	0	0
2009	1	1 (100%)	0	0
2010	61	31 (50.8%)	30 (49.2%)	0
2011	258	73 (28.3%)	183 (70.9%)	2 (0.8%)
2012	1,642	471 (28.7%)	1,163 (70.8%)	7 (0.5%)
2013	3,645	1,207 (33.1%)	2,430 (66.7%)	8 (0.3%)
2014	6,697	2,644 (39.5%)	4,045 (60.4%)	8 (0.2%)

ツイート数は年々増加しているが、特に2009年から2012年にかけて大きく増加している。これは、2008年にiPhoneが発売されたことや、Android搭載スマートフォンが2009年頃から増加したことによりツイッターを利用する人が増加したことが原因ではないかと考えられる。

また2010年以前と2011年以降で大きく分かれている。2009年は1ツイートのみが形容詞的に使われているだけであり、2010年では形容詞的用法と名詞的用法の割合がほとんど変わらない。新しく「ねむみ」という語が出てきたものの用法が定着していない状態だと考えられる。2011年以降は割合が安定していることから、「ねむみ」という語が普及し始め、用法も定着しつつあると考えられる。ただし2011年では形容詞的用法3割、名詞的用法7割であったが、2014年には形容詞的用法4割、名詞的用法6割と徐々に変化しており、形容詞的用法が今後増加していく可能性もある。

ここで形容詞的、名詞的の用法を例を挙げてみていく。

(1)ねむみけど、お家帰ったらお天気最高にいいので洗濯するにした
(・ω・)

(2)ねむみだけど足が冷えて眠れない…

(1)は形容詞「ねむい」に接続助詞「けど」を付けたもの、(2)は「-み」が状態そのものを表すという特徴を考えると「ねむいという状態」に断定の「だ」と接続助詞「けど」を付けたものであるため、(1)は形容詞的、(2)は名詞的に分類される。いずれも眠い感情と逆接を表しており、意味的に非常に似ている。

(3)ねむみを感じるが明るいうちに動いておきたい

(3)は「ねむみ」に格助詞「を」が付いているものである。ここでの「ねむみ」は感じる対象であり、名詞である。一方、形容詞には対象の意味はない。つまり「ねむみ」の品詞を見たときに、形容詞的なものには「ねむい」感情を表す意味しかないが、名詞的なものの中には、意味は形容詞に近いものと、そうでないものがある。

(4) (7か7か… 緑茶サンの自我拡散が実際心配だけど、ねむみましようね…)

(5)ねむみしながら夢現に良いお年を言っちゃった気がするんだよね
www

(4)、(5)はその他に分類されたツイートである。(4)は「ねむりましよう」と捉えると意味が通じる。(5)は活用していると捉えると、原形は「ねむみする」になる。これらは動詞的な用法である。形容詞「ねむい」を名詞化した「ねむみ」と、動詞「ねむる」の連用形「ねむり」を混同させている動詞化と、「ねむみ」にさらに「-する」を付加している動詞化の二つに分かれていることがわかる。

2. 2 接尾辞の意味による分類

品詞による分類のうち、形容詞的に分類されたものは「ねむい」感情を表す意味のみであったのに対し、名詞的に分類されたものには感情そのものの状態を表したり、動作の対象になったりと意味が複数ある。

感情の程度を表すのは本来「-さ」名詞であり、感情の状態を表すのが「-み」名詞である。だが「ねむみ」が表すのは状態だけに限らず、本来ならば「-さ」で表すものや、「-み」名詞の特徴である実体化されたものを表すことがある。そこで、名詞的用法に分類されたものを、「ねむみ」がどのような意味で使われているツイートか接尾辞の意味に沿って分類を行った。

「ねむみ」が主体となっているものや、後ろの動詞が通常ならば人を主語にとるものは擬人化しているとみなし「実体」と分類する。また、動詞が通常は実体を目的語にとり、「ねむみ」が目的語に相当するときも「実体」と分類する。これらは感情を実体化する「-み」名詞の特徴に当てはまるものである。

続いて「-さ」名詞の特徴に当てはまるものを「程度」と分類する。ここに分類されるのは感情の強さや程度を表す連体節や副詞により修飾されたものである。英語で程度を表すものもある。主に、【表1】において「連体形による接続」として判断したものはここに分類される。ただし、程度を表す連体節と実体を主語・目的語にとる動詞がともに存在するツイート

は、「激しい痛みに襲われる」と言うことはあっても「激しい痛さに襲われる」と言うことはないことから、「実体」を優先する。

以下は接尾辞の意味による分類ではないが、名詞的用法の中でも異質なため、別に分類する。

(6)甘みみたい ねむみ

(7)ねむみは語呂もいい感じだなあ

(6)、(7)のように「ねむみ」を感情ではなく言葉として捉えているものを、対象を高次的に見ているメタ言語から「メタ」と分類する。

「ねむみが…」など、主語ではあるが実体が程度が判断できないものは意味分類できないものとして「その他」とする。以下、【表 3】は分類基準、【表 4】はその結果である。

【表 3 接尾辞の意味による分類基準】

実体	「ねむみ」が行動しているもの、実体化しているもの 例：「ねむみに負ける」「ねむみが襲う」「ねむみが足りない」
程度	高まる、強い、極みなどの程度を表すもの 例：「ねむみが高まる」「強めのねむみ」「ねむみが限界」
メタ	「ねむみ」を感情ではなく言葉として捉えているもの 例：「『ねむみ』という言葉」「『ねむみ』ってなんだ」
その他	実体が程度が判断できないもの 例：「ねむみが…」「安定のねむみ」

【表 4 接尾辞の意味による分類結果】

年	名詞的 全体数	実体	程度	メタ	その他
2010	30	12 (40.0%)	7 (23.3%)	0 (0%)	11 (36.7%)
2011	183	62 (33.9%)	43 (23.5%)	3 (1.6%)	75 (41.0%)
2012	1,163	531 (45.7%)	204 (17.5%)	21 (1.8%)	407 (35.0%)
2013	2,430	899 (37.0%)	589 (24.2%)	38 (1.6%)	904 (37.2%)
2014	4,045	1,620 (40.0%)	921 (22.8%)	38 (0.9%)	1,466 (36.3%)

名詞的用法全体との比率を見ると、分類できない「その他」を除いては「実体」の割合が最も多く、2012年を除いてはおおよそ「実体」が3~4

割,「程度」が2割強で安定している。これは接尾辞「-み」の持つ,感情を実体化するという性質が表れていると言える。

次の(8)は「程度」,(9)は「実体」に分類されたツイートである。

- (8)帰宅してお風呂入った(*^^*)ねむみがMAXなので寝ます
((_ _))..zzzZZ
(9)ねむみがやってきたから寝ます(´Q`)。oO

(8),(9)とも寝る理由についてのツイートであるが,動作の理由が自分の内からか他のものからかという点で違いがある。このように「程度」に分類されるツイートでは感情が自分の中にある状態を表すものが多く,「実体」に分類されるツイートでは自分の感情が外に出ている状態を表すものが多かった。

2011年以降に「メタ」が存在する。割合としては2%以下だが,「ねむみ」を言葉として捉えているということは,そのツイートがタイムラインに表示されたツイッター利用者は「ねむい」や「ねむさ」,「ねむけ」といった語と比較し,「ねむみ」という語の意味を捉えることができる。つまり新語の意味が普及するためには「メタ」のツイートが不可欠だと考えられる。ツイート数が減少することなく「メタ」のツイートがほぼゼロになれば「ねむみ」が社会に定着したと言えるのではないか。

2.3 造語法による分類

名詞的用法には以下のようなツイートがみられた。

- (10)ねむみ度
(11)ねむみーランド

(10)は「ねむみ」に割合や程度を表す「度」という語を結合させた言葉である。(11)は「ディズニーランド」というすでにある語の一部を「ねむみ」に変えてもじっている。このように,既存語の一部を「ねむみ」に変えたり「ねむみ」と他の語を組み合わせてたりして新しい言葉を作り出しているものがある。「ねむみ」を使ってさらに新語を発生させているのである。そこで,新語の定義を「『ねむみ』という語を使った新しい語」として,名詞的用法のツイートの中から新語を抜き出してみると,ツイート数は以下の【表5】のようになった。

【表5 新語ツイート数】

	名詞的全体数	新語
2010	30	3(10%)

2011	183	23(12.6%)
2012	1,163	148(12.7%)
2013	2,430	256(10.6%)
2014	4,045	424(10.5%)

どの年も新語は名詞的用法全体の1割程度あることがわかる。「ねむみ」の新しい用法を生み出そうとする人が一定数存在するということである。

これらの新語がどのようにして作られたかを明らかにするために、窪菌(2002)と伊藤(2013)の造語法を参考にして語形成の分類を行ったところ、「複合」「派生」「混成」「反復」「もじり」「新造法」の6つに分類された。以下、【表6】は分類基準、【表7】は分類結果である。

【表6 造語法による分類基準】

複合	既存語を複数つなぎ合わせたもの 例：「ねむみ成分」「ねむみカフェ」
派生	独立性の低い要素が含まれた合成語 例：「おねむみ」「ねむみさん」
混成	一語の前半部分ともう一語の後半部分を結合したもの 例：「さむねむみ」「おやねむみー」
反復	一つの意味単位を繰り返したもの 例：「ねむねむみ」
もじり	既存語をもじってしゃれた語 例：「ねむみーランド」「ねむみにみず」
新造法	既存語に頼らずに創造された、恣意性を持つ語 例：「ねむみあ」「ねむみり」

【表7 造語法による分類結果】

年	新語 全体数	複合	派生	混成	反復	もじり	新造法
2010	3	2 (66.6%)	0 (0%)	1 (33.4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
2011	23	8 (34.8%)	10 (43.5%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (17.4%)	1 (4.3%)
2012	148	39 (26.3%)	93 (62.8%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	13 (8.8%)	1 (0.7%)
2013	256	83 (32.4%)	128 (50.0%)	2 (0.8%)	4 (1.6%)	30 (11.7%)	9 (3.5%)
2014	424	155	160	4	11	88	6

		(36.6%)	(37.7%)	(0.9%)	(2.6%)	(20.8%)	(1.4%)
--	--	---------	---------	--------	--------	---------	--------

呼称である「さん」などを派生語とみなしたため、「派生」の分類が比較的高い。品詞による分類では 2011 年が転機となっていたが、新語はそれが落ち着いた 2013 年に大きな変化がある。「反復」「もじり」「新造法」の割合が高くなっているのである。このうち「新造法」は次の(12)、(13)、「反復」は(14)を例としてみていく。

(12)ねむみあ

(13)でんぱちゃんて何かやらかしたら m9(´Д`)ﾌﾟｷﾞｰして下さい。
ねむみり。

(14)ねむねむみー

(12)は「ねむみ」＋「あ」、(13)は「ねむみ」＋「り」であるが、「あ」や「り」に何かしらの意味があるわけではなく、語調を整えるために付いているものだと考えられる。(14)は「ねむ」を反復している。反復法の特徴である感情の強調を示していないわけではないが、新造法と同様、語調を整えるために繰り返していると考えられる。つまり、なんとなく響きを良くしようとしたり、文法にとらわれず思いつくままに言葉に表したりといった遊びの要素が大きくなったのではないかと、そして、そういった遊びの要素を楽しむ人が 2012 年頃から増加したのではないかと考えられる。

3. 「ねむみ」における新しい使われ方

3. 1 擬人化

「ねむみ」の使われ方で特徴と言えるのは擬人化している点である。

「ねむみ教授」「ねむみさん」「ねむみちゃん」「ねむみ様」「ねむみ君」

広辞苑第六版において擬人名は「性質・形状・状態などを人名になぞらえたもの。『小言華兵衛』『石部金言』『坂東太郎』『土佐衛門』『助平』『飲ん兵衛』など。」と説明されている。小林(2014)は『人名ではない人名録一語源探索』のなかで、野暮なことを表す「野暮助」、愚か者や嘘つきを表す「与太郎」などの擬人名を挙げており、それらが江戸時代や明治時代から存在していることを述べている。また、米川(1997)の『若者ことば辞典』のなかには、眠い人のことを指した「ねむお(眠男)」や化粧の濃い人を指した「ケバ子」などがあり、時代を問わず擬人名は人々に定着していると考えられる。小林(2014)によると、江戸時代や明治時代には男性名を使った擬人名が多かった⁽²⁾が、男性名の「助兵衛」や「凸助」は女性を指すこともあったようである。一方、『若者ことば辞典』に掲載されている擬人名

は、疲れきって何もしたくない様子を表す「だる男」のように男女ともに使うものもあれば、地味な様子を表す「ジミ男」「ジミ子」のように男女の使い分けがあるものもあるようで、現代には女性名の擬人名も少なくない。

これらの擬人名の後半部分を見ると、「一助」「一兵衛」「一男」「一子」など人名の一部が使われているとわかる。「一み」も女性の名前（「一美」「一実」）としてよく用いられることから、「ねむみ」を擬人名として捉えることができるため、「ねむみ」を擬人化させた使われ方が多いと考えられる。

ただしこの擬人化という使われ方は「一み」が擬人化するというよりは感情が擬人化しているのではないかと考えられる。『若者ことば辞典』に掲載されている擬人名は「一子」「一男」が多かったことから、現代における擬人名は「一子」「一男」が多いと考えた。そこで「ねむい」感情の擬人名として「ねむみ」の他に男性名の「ねむお(ねむ男)」と女性名の「ねむこ(ねむ子)」があると考え、呼称「さん」「ちゃん」「くん」の付いているツイート数の調査を2014年1月に限定して行った。結果を以下【表8】に示す。

【表8 擬人名の呼称付きツイート数】

	さん	ちゃん	くん	合計
ねむみ	30	16	0	46
ねむお	11	6	11	28
ねむこ	4	10	0	14

この結果から、女性名である「ねむみ」より少ないものの、男性名である「ねむお」もある程度ツイートされていること、女性名を比較すると「ねむみ」が「ねむこ」を大きく上回っていることがわかる。男性名も存在することから「ねむい」感情を擬人名にすることは不自然ではないと考えられる。しかし「ねむこ」は極少数であることから女性名は「ねむみ」の方が定着している。また「ねむこ」を検索したところ、アカウント名が「ねむこ」であり自分の一人称として使用しているものが多かった。対して「ねむお」と「ねむみ」は感情の状態のことを「ねむみ」という語で表しているものが多い。つまり自分が眠い人物であることを言うときには「ねむこ」という擬人名が多く、突発的な眠気を感じている状態のことを言うときには、眠気のことを「ねむみ」という擬人名で表していると考えられる。眠気を実体化して表すことのできる「ねむみ」という語が発生したことで、擬人名により人と状態を区別しやすくなったということである。

3. 2 派生語の派生

もう一つ特徴と言えるのは、名詞派生である「ねむみ」を語幹としてさらに品詞を派生させた使い方をしている点である。

品詞ごとの分類で「ねむみする」という動詞の用法があったが、これは形容詞「ねむい」の語幹に名詞化する接尾辞「ーみ」を付けて名詞「ねむみ」を派生し、さらに動詞化する接尾辞「ーする」を付けて動詞「ねむみする」を派生させている。

2013年、2014年には「ねむみけ」「ねむみさ」「ねむみし」という派生語が発生している。特に「ねむみし」は2013年までは見られなかったが、2014年には15ツイート見られた。

「ねむみけ」「ねむみさ」は名詞化する接尾辞「け」「さ」が付いている派生である。これは「ねむみ」だけでは程度か実体かが曖昧になってしまうのを防ぐためにさらに接尾辞の意味を重ねていると考えられる。

「ねむみし」の構造は「ねむみ」+「し」であるが、この「し」は文語形の形容詞を派生する接尾辞である。北原(2010)は形容詞の再構時の意識として以下のように述べている。

個別の形容詞の文語形を再構する場合に、ク活用だシク活用だと区別しているわけではないから、要するに「ーい」は口語形、「ーし」は文語形という意識に基づいた再構であるということになる。

ツイッターでは口語が使われることが多いが、あえて遊びの要素として文語を用いることがある。「ねむみし」は文語体にしようとして行われた派生だと考えられる。

ここまで動詞、名詞、形容詞への派生が起きていることを述べたが、他に、形容動詞への派生と捉えることのできるツイートがある。

北原(2010)によると、形容詞とほぼ同じ働きをし、言い切ったときの形(終止形)が「ーだ」になるものは形容動詞である。2. 1の(2)「ねむみだけど」は名詞「ねむみ」+断定「だ」+逆接「けど」という構造だとしたが、意味的に形容詞に似ていることから「ねむみだ」という形容動詞としても捉えることができる。

このように「ねむみ」は他の品詞への派生が起きている。これらの派生が起きているのは、新しい語を作って楽しもうとするツイッター利用者が、語幹の概念を考えていないからではないかと考えられる。また、既存語で同じように形容詞の名詞派生である「悲しみ」「面白み」などは、「悲しみさ」や「面白みする」へ派生することはない。「ねむみ」に限って派生が起きていると考えられるが、これは新語である「ねむみ」の意味や語構成が定着しきれていないことが原因だと考えられる。既存語は既に意味が定着しているため別の意味を作り出すことは困難だが、意味が定着しきっていない語に別の意味をもたせることは簡単である。

4 研究の成果と課題

4. 1 研究の成果

名詞化するはずの「一み」が形容詞的に使われていること、また、年を経るにつれて形容詞的用法の割合が増加し、また動詞的用法も発生していることが明らかになった。「一み」の用法は名詞的に限らず、また名詞的以外の用法が広まりつつある。接尾辞に着目して分類すると、本来ならば「一さ」で表す感情の程度を「一み」で表しているツイートが見られた。割合としては「一み」に特有の実体化する性質を使用しているツイートが多かったが、程度を表すものも少なくない。また、感情が自分の内にあるときは程度を表し、外に出ているときは実体を表すツイートが多かったのは「一み」の実体化の特徴が強く反映しているためだと考えられる。「ねむみ」を使った新語が多数存在したことから、それらの新語の造語法に着目して分類すると、「ねむみ」と他の語を組み合わせた新語が多く、他の語を組み合わせないものは、反復で響きを良くしたり、既存語をもじったりといった遊びの要素をもって作られていると考えられる。

新語の発生に関して、ツイッターに見られる「ねむみ」の特徴として、擬人化した使い方が出現していることと、「ねむみ」をさらに派生していることが挙げられる。擬人化に関しては、「ねむい」からくる他の擬人名に比べ「ねむみ」の数が多し。「一み」が実体を表すことから「ねむみ」は感情そのものを擬人名として表すことができるため、眠気を感じている人を表す擬人名と眠気そのものを表す擬人名の区別がしやすくなっている。「一み」の派生に関して、「悲しみ」など既存の「一み」名詞からは「悲しみ」を語幹にした派生は起こらないが、「ねむみ」はそれ自体を語幹にして派生が起きている。新語は意味や語構成が定着していないため、新たな意味を持つたり派生語自体が語幹になってしまったりすることがあると考えられる。

4. 2 今後の課題

今回の対象は2008年から2014年の7年分であったが、各年1月分に範囲を限定したため2008年、2009年のツイート数が少なく、2010年から2014年の5年分が主な対象となった。今後は、各年の調査する月を増やし、2015年も対象に入れて調査することでより詳細な変化を考察していく必要がある。また、「ねむみ」と既存の「一み」の違い、「ねむみ」と他の新しく発生している「一み」とで用法の違いがあるかを探ることが必要だと考えられる。

【注】

(1)「ねむみ」と打って漢字変換しようとする一発変換では出てこない。まず出てくるのは「合飲み」であるため、「眠み」と表示するには一度「眠い」や「眠気」などと打ち込んで一文字消し、それから「み」を付ける必要がある。予測変換機能は学習機能を持つとはいえ、学習するほど頻繁に「眠み」と漢字で打ち込むのは手間ではないため漢字でのツイート数は少ないと考えたことから、漢字の「眠み」は対象にしなかった。

(2)女性を表す擬人名がないわけではなく、小林(2014)『人名ではない人名録一語源探索』には「おかめ」「乙御前」「お福」の3つが挙げられている。

【参考文献】

- 相原林司(1983)「形容詞分類の一試案—派生語形成の可否による—」『文藝言語研究. 言語篇』第8巻, 筑波大学, pp.129-144
- 伊藤如騎(2013)『新語創出の背景—現在と過去の造語法の比較から—』信州大学卒業論文
- 岸本千秋(2009)「インターネットにおける新語とその周辺」『日本語学』第28巻第14号, 明治書院, pp.98-107
- 北原保雄(2010)『日本語の形容詞』大修館書店
- 木村義之(2009)「隠語と新語」『日本語学』第28巻第14号, 明治書院, pp.58-78
- 窪菌晴夫(2002)『新語はこうして作られる』岩波書店
- 小林祥次郎(2014)『人名ではない人名録一語源探索』勉誠出版
- 新村出編(2008)『広辞苑(第六版)』, 岩波書店
- 竹林滋編(2003)『新英和中辞典(第七版)』研究社
- 湯廷池・劉懿禎(2010)「形容詞の名詞化接尾辞:「-さ」・「-み」・「-め」と「-き」について」『淡江外語論叢』No.16, 淡江大學外國語文學院, pp.119-141
- 松田美佐(2008)「ケータイ/ウェブの表現スタイル」『言語』第37巻第1号, 大修館書店, pp.40-45
- 米川明彦(1989)『新語と流行語 叢書・ことばの世界』南雲堂
- 米川明彦(1997)『若者ことば事典』東京堂出版
- 渡辺友左(1981)『隠語の世界 集団語へのいざない』南雲堂
- ツイッターヘルプセンター <https://support.twitter.com/articles/20170159-#>

(よだ あやの 諏訪郡下諏訪町立下諏訪南小学校)